

書評

山川登美子全集

坂本政親編 光彩社刊

昭和四七年発行 A5版 三八三頁

杉原丈夫

编者坂本政親氏は、山川登美子の研究家として著名な方であり、昭和三六年すでに「山川登美子集」を刊行しておられる。今回の編著は、前著の全面的な増補改訂版で

ある。上巻は本文編である。下巻はたぶん伝記編になるのであろう。従って全集としては、上巻で完備している。

収載されている作品は、生前発表の「恋衣」や「明星」誌上の短歌四二四首、生前未発表の稿本などの詠草一一九二首および詩三、美文四、随筆二四、雑録二七、書簡四五編に及び、文字通り登美子の「全集」である。あと、しいてあげれば、彼女の書いた絵が落ちていくぐらである。下巻で追補していただければ幸である。さらに欲をいえば、彼女の筆跡をもっと多数、口絵写真として入れてほしかった。絵はがきも写真にした方がよかつたであらう。

収載作品のうち、稿本「花のちり塚」および書簡の大部分は、今回はじめて活字化されて紹介されたものである。他の生前未発表作品も坂本氏の原著によって最初に世に知られたものであるから、全編ほとんど坂本氏の手により紹介されたと考えてよい。こうして完成されたものを見ると、なんでもないようであるが、零細な資料を根気よく収集し、ノートや書簡の読みにくい

文字を判読した編者の労苦は、多大なものであつたと思われる。

なお巻末には、短歌の初句索引および著作年表がついている。

若狭が生んだ歌人山川登美子については、なんら説明を要しないであらう。ただ従来は、彼女の薄幸な生涯や晶子との恋のさや当てなど伝記的な興味から、研究がなされているというきらいがあつた。この全集発刊を機会にして、彼女の作品そのものの評論的研究、文学者としての彼女の価値についてのあげつらいがなされることを希望してやまない。